



身近なみどり整備推進事業 事例集

平成23年7月

茨城県農林水産部林政課

目 次

- 1 松並景観復元への取組み（日立市）
- 2 林内整備と森林の利活用（東海村）
- 3 地域住民の憩いの場としての森林復活（行方市）
- 4 通学路に面した森林の整備（行方市）
- 5 森林整備における現場発生材の有効利用（稲敷市）
- 6 森林の整備を契機としたボランティア団体の設立（筑西市）
- 7 地域住民等による森林整備と維持管理（常総市）

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例１）

松並景観復元への取組み（日立市）

（概要）

日立市にある小貝ヶ浜緑地は、県が選定した茨城百景の一つであり、風光明媚な場所ですが、近年松くい虫の被害により多くの松が枯れてしまいました。

そこで、この緑地に古くからの美しい松林を市民の手で取り戻そうと、市では当事業を実施し、平成２２年３月に植樹祭を開催しました。

小貝ヶ浜緑地の公園里親になっている「森のボランティア茨城」及び当該地で活動している「常陸の森クラブ」を始め、市内の森林愛護隊（緑の少年団）など様々な世代が参加し、松くい虫に抵抗性があるクロマツが植えられました。

今後も、保全活用型協定のもと適切に維持管理され、風情のある松並景観の復元が期待されます。

（写真）



枯損木処理後の状況



植樹祭の状況



植樹祭の状況



施工後の状況

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例２）

林内整備と森林の利活用（東海村）

（概要）

東海村最大の古墳を歴史的遺産として管理していくため、村は、毎年地域住民の協力により、下刈りの実施や落枝の集積などを行っています。

当該地を歴史的遺産とともに村民の憩いの場として活用を図るため、村は当事業を活用して、下刈りを実施したほか、木製ベンチの設置やチップ舗装と丸太を利用した散策路を整備しました。

今後は、古墳の管理とあわせて森林の利活用が図られることが期待されます。

（写真）



間伐実施後



現場発生材を利用した散策路

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例３）

地域住民の憩いの場としての森林復活（行方市）

（概要）

小貫字根木山は、国道から市道に入った場所にあり、地域住民による「森と緑を守る会」が沿道の山面にサクラ、サツキ、スイセンなどを植え、ゴミ拾い、清掃活動をしてきましたが、沿道に面した森林は荒廃していることから、地元の子どもたちは、林内で遊ぶ経験がありませんでした。

そこで、当事業により除間伐等を実施した結果、子どもたちをはじめとした多くの住民が森林浴や森林学習など憩いの場として利用するようになり、森林がよみがえりました。

また、冬の時期には落ち葉を近くの農家がたい肥として利用するなど、森林が様々な形で活用されています。

（写真）



施工後の状況



地元の子どもたちを対象とした森林学習

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例４）

通学路に面した森林の整備（行方市）

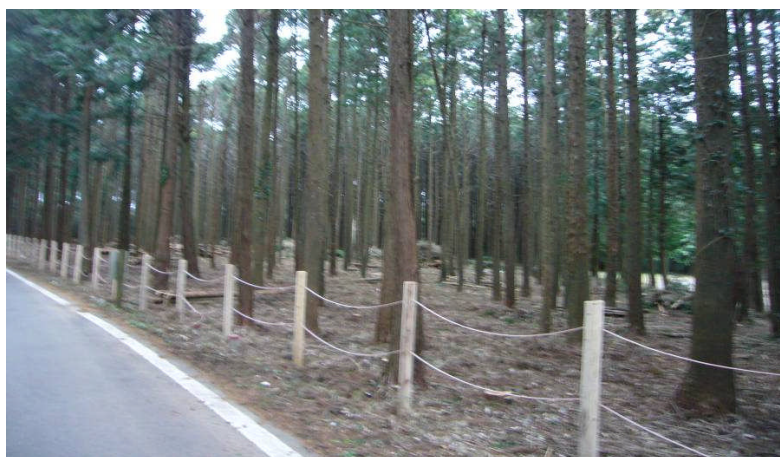
（概要）

小貫小学校の通学路となっている小貫字馬立場は、旧北浦町時代から廃棄物が不法投棄され荒廃していました。このため、地元住民から、子どもたちが林内を見通せる明るく安全な通学路にしようと、市に要望がありました。

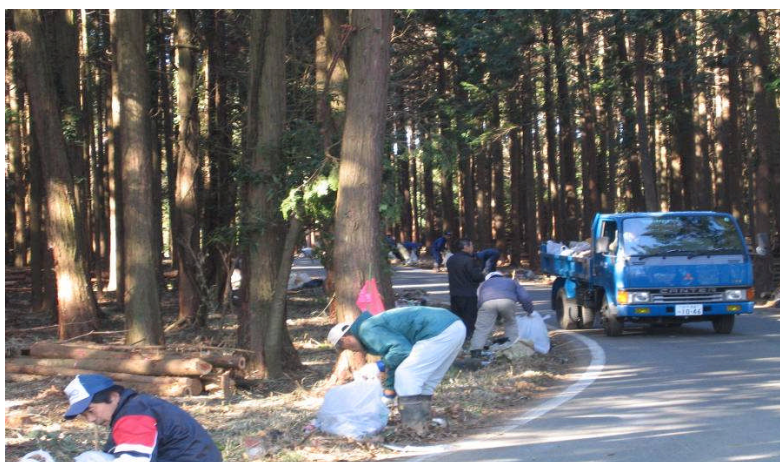
そこで、地元住民、ＰＴＡ、ボランティア団体「森と緑を守る会」、森林所有者により不法投棄された粗大ごみをはじめとした様々なごみの撤去を行うとともに、道路の両側の下刈りを行い、木柵を設置しました。

その結果、小学生にとって安全で美しい通学路となり、生活環境の改善が図られました。

（写真）



施工後の状況



地元住民等によるごみの撤去

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例５）

森林整備における現場発生材の有効利用（稲敷市）

（概要）

阿波小学校に面する森林（稲敷市阿波地内）は、生徒たちの野外活動の場として利用されていましたが、林内はうっそうとし、林内も暗く、野外活動に支障が生じていました。

このため、当事業で除間伐を実施し、さらに、現場発生材を利用し階段や、水路等を設置することで、これまで以上に利活用が図られることが期待されます。

（写真）



現場発生材を利用した階段



現場発生材を利用した歩道と水路

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例６）

森林の整備を契機としたボランティア団体の設立（筑西市）

（概要）

小中学校、幼稚園、スポーツ施設、福祉センター、図書館などの文教・保健施設が集中している明野元気館周辺の森林は、地域住民の憩いの場として親しまれており、付近の道路は、通学路、市指定のウォーキングロードとしても利用されています。

しかし、森林の利活用がされなくなって荒廃していることから、林内が暗く、地域の景観の悪化や治安上の不安も出ていました。

そこで、当事業により、下刈り・間伐等の整備を行い、明るく快適な森林空間が創出されたことを契機に、森林の整備に関心の高い住民を中心とした森林ボランティア団体（あけの元気館周辺里山整備実行委員会）が設立されました。

今後も、森林の広域的な整備・保全を継続することにより、森林整備意識の向上など地域住民への啓発効果も期待されます。

（写真）



施工前の状況



施工後の状況



施工後の状況



森林ボランティア設立総会

身近なみどり整備推進事業における事例

（事例７）

地域住民等による森林整備と維持管理（常総市）

（概要）

十一面山の森林（常総市若宮戸地内）は、高度経済成長期の川砂の採取や、その後のゴミの不法投棄により森林の機能が失われていました。

そこで、平成２０年度から、常総市が当事業により、下刈や間伐などの森林整備を実施するとともに、市、十一面山平地林保全整備促進協議会、森林所有者の三者が森林整備協定を締結して、下草刈りや清掃等の維持管理を継続しています。

また、毎年自然観察会や森林体験イベントなどを開催して、地元住民の交流の場やふれあいの場として利用することを通じて、地域住民への森林の再生・利活用の啓発活動を行っています。

（写真）



施工後の状況



維持管理の状況